

ふだん何気なく使っているリサーチ用語がグローバルには通用しない和製英語だったり、ただの社内用語だったことはありませんか？

それを知らずに使ってしまうと、思わぬ混乱や間違いを招いてしまうこともあります。

そこで、出版委員会で「リサーチ用語探偵団」を結成し、リサーチ用語をめぐる謎を探っていくことにしました。

ここで書いた解説は探偵団による暫定的な交通整理にすぎませんので、別のご意見がありましたら

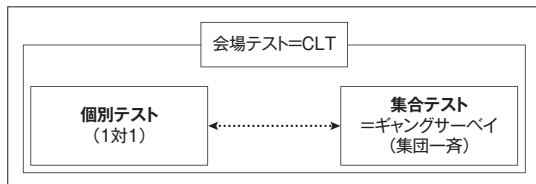
出版委員会までお寄せください。.....JMRA出版委員会

ギ ャング・サーベイ (gang survey)



調査の教科書やテキストなどでたまに見かける「ギャング・サーベイ」って何でしょうか？

ギャングは暴力団一味という意味合いもありますが、そもそもは「仲間」「一群」という意味であり、「ギャング・サーベイ」はマーケティング・リサーチ用語辞典では「集団一斉調査」と説明されています。会場に集められた集団に同時に質問して回答を求めることが特徴で、1対1の個別面接とは異なり、回答方法によっては他者の影響を受けることもあるため、調査設計時には注意が必要です。



回答方法としては、広告評価や製品評価などで、①一斉に調査票に記入してもらい ②回答のボタンを押してもらい、などがあげられます。

同一条件下でスピーディーに大量サンプルの評価を得られることが最大の長特ですが、回答時間に個人差が出る調査には向いていないようです。

グ ループインタビューの進行を行う人の呼称



グループインタビューの進行を行う人を何と呼んでいますか？ 呼び方は使い分けているのでしょうか？

「司会者」「モデレーター」「インタビュアー」等の呼称が使われますが、「モデレーター」は「仲裁者、調停者」と辞書では定義され、意見のヒートアップを抑えたり、発言を促したりして討論の流れをコントロールする「司会者」を指します。「ファシリテーター」という語もほぼ同義に扱われますが、進行を助け、討論を活性化させるが、成果にまでは責任をもたないのに対し、「モデレーター」は成果にまで責任をもつというニュアンスがあるようです。また、「インタビュアー」は公式な場で質問をする人という意味であり、面接調査員のことも含みます。

なお、出版委員会内には、「かつては欧米間でニュアンスがやや違い、アメリカでは focus group interview と呼ぶことが多く、一人ひとりから情報を得ることを重視された。一方、イギリスでは focus group discussion と呼ぶことが多く、探索的にディスカッションを積みあげることが重視された」というイギリスの調査会社の人の話を伝え聞いたことがある委員もいます。ともあれ、現在は、discussion を moderate する moderator という語がワールドワイドに一般的なようです。

参考文献

小学館『デジタル大辞泉』
日本マーケティング・リサーチ協会・編(2008)『改訂版
マーケティング・リサーチ用語辞典』、同友館
<http://www.aqr.org.uk/glossary/moderator>